

下刈り作業の手順と注意点

1. 通勤途中、作業場での移動途中等刃物を使用しなかったり、持ち運ぶときは必ず刃物に鞘をはめること。
2. 手鎌を研ぐときは刃先から砥石がはずれて、研いでいる刃物で手を切らないようによく注意すること。刃物を下に置いて、その上を砥石で研ぐときは砥石が刃先を行き過ぎて研ぎはずしをしないように、砥石がいきすぎる手前で止めるように先にものを置いて研ぐ。手鎌を腰に差したり、手に持ったまま研ぐときは砥石の下半分を使うように拳の中に挟み込むようにして保持し、指先を内側に曲げ、曲げた指先が手鎌の背に当たって砥石を持った手がそれ以上に先に進まないようにすることで、研ぎはずしによる負傷を防ぐ。
3. 山の繁茂の状況にあわせて、また自分の体力にあわせて鎌の大小を決めて使う。よく茂った山には両手で持って使う大鎌を、あまり茂っていない山の場合は片手で使う手鎌を使う。鎌の柄の長さも自分で使い易い長さにする。長すぎても短すぎても力が入りにくい。手鎌の柄の長さは柄首を持って腕にそわせたとき、肘より一握りくらい長い長さが普通である。自分の手にあった太さの柄を取り付ける。
4. 平地では、どちらの方向からでも刈っていけるが、傾斜地では鎌を持った手(利き腕)が斜面の上の方に位置しないとうまく刈れない。即ち、斜面にそって上からでないと刈れないのでよく茂ったところでは、そのような一定の方向から刈った方が安全であり、効率も良くなる。例えば、右利きの人は刈り進む方向の右上から正面少し下までは右手で刈り、その下側は左手で刈る。鎌を自分の方へ引くのではなく、身体の側面の方へ逃がすようにして刈れば安全である。植林間もない小さい木の場合は、杖くらいの棒を持って刈っていく先を押さえたり、植栽木を刈ってしまわないように、植栽木の手前に棒をあてがったりすると安全できれいに刈ることができる。また、同時に脛の方向に向かってくる鎌の先から身を守ることにも役立つ。植栽木の根元をきれいに刈るには、植栽木より斜面の下側に位置して刈ると刈りやすい。
5. 蔓の多いところは、よく注意しないと蔓のために手鎌を取られたり、鎌の方向が狂ったりするのでよく注意して鎌を使う。太めの蔓の場合は、同時に何本も刈り払わず一本ずつ刈った方が安全である。拡大造林地は雑木の根株が多く、切り株に手鎌の腹が当たると大きく方向が狂うのでよく注意する。転石や切り株の多いところでは、大きく鎌を振らない方が安全である。

6. 何人かが同じ山に入った時には、互いの手鎌が触れ合わないよう十分に距離を取って仕事をする。
7. 木の枝や雑草、特にウラジロシダの切株等で目をはねないように十分注意し、視力の弱い者はメガネを着用する。自分の刈り払ったものが跳ね上がり、他の仲間が負傷などしないよう周りにも注意を払う。特に林内を進む時には前後の間隔を十分にとってよく注意し合うこと。
8. 急傾斜地では特に注意して足場の安全を確保し、不自然な体勢で仕事をしないこと。
9. 折れそうになった柄は早めに取り替える。
10. 脛当て、手袋を着用すること。

以上のことを基にして、TBM等により十分検討し、更に安全確保のために十分な方法を考え、皆の経験等を活かしてより具体的な安全手順を考えていく。